



本町消防団が平成23年度入退団式を挙行 4月3日

東日本大震災の発生を受け 高まり見せる「防災意識」

退団者には、その功績に感謝を
入団者には、大きな期待を



桜の花がほころび始めた4月3日の本川根小グラウンド。長年消防団活動に貢献された退団者に感謝を贈り、本年度から仲間に加わる新入団員を迎えるための「平成23年度本町消防団入退団式」が挙行された。

午前8時。本部前には新入団員が集合し、本部長から整列などの指導を受けている。みな緊張の面持ち。一人一人が指先を伸ばし、大きな発声で気を引き締めていた。

午前9時。来賓が見守る中、ラッパ隊の高らかな演奏を合図に行進が始まる。この日集った318人の団員が規律正しく、力強く入場した。

式典は、東日本大震災の被災者に黙とうをささげた後、国歌斉唱、消防殉職者への黙とう、団旗に対する敬礼などへと続いた。

このあと、高田智祥団長から、新しく入団する団員16人に任命書が手渡され、28人の退団者には感謝状が贈られた。

高田団長は「3月31日をもって任を解かれた28人の退団者の皆さんには、長年にわたり地域の防災活動に貢献していただきました。今後とも

進の指導などを通して、消防団を温かく見守っていただきたいと思えます。また16人の新入団員の皆さんは、分団長を始めとする先輩たちから、消防団員の心構えなどを学び、一日も早く立派な団員となるよう精進してください」と述べた。

キビキビとした動作、全力疾走
頼もしく、そして心強く

式典のあとは、訓練披露。7分団（自動車ポンプ）、4分団（小型ポンプ）が、キビキビとした動作でホースをつなぎ、火点に向かって全力疾走を見せる。見事な操法に、来賓や他の団員から拍手が上がった。

観閲者の佐藤公敏町長は「訓練を披露した分団の迅速かつ的確な操法はとても頼もしく、心強く感じました。『安全・安心のまちづくり』は、消防団員を始めとした全ての住民の皆さんが防災の意識や心構えを高めることによって実現できると思っています」と訓示した。

式典は最後、高畑雅一議員の発声による「万歳三唱」と山下喜隆消防委員長の発声による「火の用心三唱」が唱和され、全員で無火災、無災害を祈念して終了した。

東日本大震災の発生直後とあって、団長や観閲者の言葉の端々から、そして、その場にいる全員の表情から、災害に対する危機感や防災意識の高まりが感じられた。

大規模災害は、いつどこで発生するか、誰にも分からない
的確な操法、一糸乱れぬ動作、胸に秘めた郷土愛と使命感…
災害から地域を守るため、本町には消防団がある



1高田団長から任命を受ける新入団員。引き締まった表情が決意を物語る2震災の被災者に哀悼の意を表し、半旗が掲げられる3長年にわたり地域の防災活動に尽力された退団者には感謝状が贈られた4副団長を任命された佐渡和彦さん5本部長を任命された太田訓史さん、中村浩信さん6グラウンド脇にずらりと並んだ消防ポンプ車群7式典前、本部長の指導を受ける新入団員たち8一糸乱れぬ隊列を見せた入場行進9キビキビとした操法を披露した7分団



新入団員を代表し
誓いの言葉を述べる

本町消防団第1分団
大森義久 団員

私たち川根本町消防団員は、日本国憲法を遵守し、誠実かつ公平に、良心に従って業務を遂行します。



7

8

9

3

5

4

6

1

2